

教員活動状況報告書

提出日：令和 4 年 3 月 5 日
 所 属： 獣医 学部 動物応用科 学科
 氏 名： 大木 茂 職位： 教授
 役 職：

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
専門ゼミ	動物応用科学科	必修	3	6
卒業論文	動物応用科学科	必修	4	3
科学の伝達	動物応用科学科	必修	4	3
動物資源経済学	動物応用科学科	必修	2	136
経済学	動物応用科学科	選択	1	67
動物資源経済学演習	動物応用科学科	選択	4	(2022～)
スタディ・スキルズ	動物応用科学科	必修	1	137
動物応用科学実習	動物応用科学科	必修	1	136
牧場実習	動物応用科学科	選択	2	36
キャリア形成	動物応用科学科	必修	2	134
基礎ゼミ	動物応用科学科	必修	1	137

専門ゼミ：主に卒業論文に生かすための、専門文献(日本語／英語)の輪読を行っている。又、時期ごとに卒業論文の中間報告を行ない、Q&A により問題意識の明確化、知識の正確性を高める作業の重要性の気づきを促している。

卒業論文：卒論生に対して一人一人の卒論テーマを設定し、科学の伝達の時間帯を含めて個別に指導を行っている。問題意識、構成、オリジナル調査・統計分析の指導、数次にわたる提出と朱入れをとおして、完成版の提出に至る。一人一人に問題意識を深めていけるようなアドバイスを心がけた。

科学の伝達：卒業論文に関する問題意識の深め方を、主としてゼミの時間帯に専門書の輪読を通じて指導を心がけた。就職活動などで欠席するときは、事前にレジメを提出し、朱を入れ修正を指示するなどもおこない、就職活動が卒業研究の妨げにならないようにした。

動物資源経済学：2 年前期の必修であることから、就職活動に寄与できる内容の伝達に心がけた。動物と食・農・環境との関わりを伝え、動物が人々の暮らしや経済活動とどのように関わるのかを示すことを心がけた。幅広い知識の理解／修得を最も重視している。

経済学：1 年後期の選択である。動物に興味を持って入学しているため、動物、とりわけ産業動物の経済学と食や健康、環境とのつながりを理解すること、世界的に関心の高まるアニマルウェルフェア配慮とその

食品の展開を紹介し、世界という俯瞰ものとして思考することの大切さを喚起している。

動物資源経済学演習：新カリの4年前期選択開講科目である。2022年度からだが、3年でも先取りできるようにする。中山間地域における獣害対策を契機にそれを地域振興につなげている島根県美郷町で現地合宿を行い、地域の問題を理解し、そこでの獣害対策の取り組み地域振興の取り組みを理解する。このことで問題の発見、課題設定、問題解決、そのための総合的な知識／情報／資源の活用などの重要性を認識／理解することで、キャリア形成、キャリアチェンジの運営能力を養うことを目的とする。

スタディスキルズ：1年前期必修である。大学での学習方法や必要とされる力について演習方式で学ぶ。具体的には、①レポート・論文の書き方などの文章作法、②ノートの取り方、③プレゼンテーションやディスカッション、ディベートなど口頭発表技術、④論理的思考や問題発見・解決能力、⑤時間管理・学修習慣、等を身につける。また、1年次に固有のガイダンスや初年次教育のためのグループワークを実施する。学生にテーマを10程度提示し、自分の興味に合わせたテーマでの上記課題に取り組む。

動物応用科学実習：1年前期必修である。動物応用科学科は、研究室により扱う動物も大動物から実験動物を含む小動物と幅広く、講義も畜産学的内容から動物介在活動や野生動物まで幅広いが、家畜を扱う学問が基盤であることを理解する。この実習により、搾乳や給餌など家畜管理を通して、動物と人間と環境の関わりを考える能力を養う。

牧場実習：牧場での実習により、産業動物のハンドリングを詳細に理解する。また産業動物の経営に必要な資源、施設、資金、仕事の広がりを学ぶ。((1)(2)(3)(4)と関連するが、とくに(3)態度・志向性の点で、動物応用科学科でこれまでに学んだことや実習で学んだことをふまえて、よりよい社会にむけた生かし方について考察を深める。

キャリア形成：2年後期必修で社会調査論と併せて単位を構成している。将来の就職活動を有意義に行う為に、キャリアに関する考え方、動物応用が関係する仕事の内容などを学び、目的意識を高めることを目的とする。なかでも「卒業生との交流会」を開催することで、学科の先輩から仕事や就職活動への心構えを聞くことで就職活動に向けた準備をおこなう。

基礎ゼミ：1年後期の必修。概ね8人ずつ4クールを受け持つ。勉強と研究の基本は、文章を正確に深く理解することであると考えて、専門につながる一般的な書籍を輪読し全員発表をしてもらっている。文章が読み込めていない事例が少なくないので、報告を聞きながら内容の確認をさせて、読み取れていない点を自分で理解できるようにしている。

2. 教育の理念（育てたい学生像、あり方、信念）

学生一人一人が自分の興味について認識し、その興味をくじけることなく追求し続ける持久力と深く追求していける探求力をもった学生を育てたい。理科系の学科で社会科学を教える意義としては、将来にわたる職業生活の中で、新しい事柄にチャレンジしていけるような興味の広さ、そして興味を持ったときにこれまでと異なる分野でも深めていけるような穴のない基本的学力の獲得、そして深く探求していける思考力と実行力を持たせるためにはどうしたいかを考えて教育を行っている。また高校までの勉強と大学での勉強の意味の違いを認識させるように、考え方の幅の存在とその考え方の違いを紹介するなどして、

自分の考えの形成に役立つようなアプローチを心がけている。また知識や能力があってもそれをどのように生かすかを間違えないようにすることも同じ程度重要であることも折に触れて理解できるように示すようにしている。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方、方法）

理念を実現するには、第一に姿勢が重要と考える。可能な範囲で主体的な自発性に依拠した教育を行うことを重視している。そして毎回の授業への復習課題を課すことで勉強・学問・課題に向き合う姿勢を形成したいと試みている。

第二に、教育の向上という点から、学生の要望に対応すると同時に、まずは多くの知識量が求められるとの認識から、授業資料を多く提供し、深くあるいは細部を丹念に理解しようと試みることが可能な資料提供を心がけている。

第三に、質問・疑問に関しては、次回授業や追加スライドにより理解定着を図る。そのことで授業進行に支障が出たときは、資料の補足により対応している。

第四に、授業参加により、将来の進路を考える上で参考になるような、視野を広げていけるような内容の提供する提供を重視している。

当研究室の専門性である、経済学・動物資源経済学においては、上記の考え方に基づいて、毎回の授業に関しては理解度確認のための復習テスト、また授業内容の要点を整理したノート（レポート）、そして自由レポート（枠外の評価）により、自主性・主体性を喚起しつつ、ステップを踏んで理解を進められるようにしている。又フィードバックとしては、復習テストの解説を次回の授業で行うことで、理解定着を図っている。

アクティブラーニングについての取組

例えば、経済学、動物資源経済学では、授業の課題として毎回、授業で学んだことを整理しレポートとして課した。このことにより、授業で学んだことの復習効果が得られる点で効果があったと思われる。

ICT の教育への活用

経済学、動物資源経済学では、基本的に同期型授業とした。パワーポイントを利用した説明は、パワーポイントを黒板がわりに使用した。全画面表示でないと見にくいという弱点もあるが、文字を加筆することで、理解を強化することが可能になったと思われる。なおスライドは授業前と、加筆した上行後の 2 パターンを学生に提供することで、復習に役立てられたと考える。ただし、授業中のチャットによる質問や音声による質問などは、促すだけではでにくかったので、授業内容と合わせて、質問の出やすい方法を考える必要もある。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）（分量の目安：15～24 行（600 字～960 字））

①教育（授業、実習）の創意工夫（B）

動物応用科学実習は、3 月までかかりながらも、日程を若干短縮して実施できたことが学生

にとって満足度は高かったと思われる。2020 年度と比較して大きく改善された点である。

牧場実習も、70 名以上が、実習予定だったが、夏期期間の新型コロナウイルス感染症の広がりの中で、その半分の 40 人程度となってしまったことは残念であった。しかし 2020 年度と比較して、わずかでも実習に行けたことは次年度実施に向けて様々な参考になった。又実習できた学生は、大いに満足度が高かったものと思われる。

スタディ・スキルズは、学生の半分が対面で半分がリモートであったため、極めて実施しにくいものとなった。この授業では、前半の 7 回分はほぼ個人作業だが、後半の 7 回分は前半の作業に基づいて、テーマごとに慎重に分けたグループごとでの作業となる。なかでも最も重視しているディベートがオンラインでの実施となったため、十分な論戦ができにくかった。次年度への課題である。

②学生理解度の把握 (C)

動物資源経済学、経済学において、毎回の小テストで理解度を測っていたが、なかなか点数が上がっていなかった。理解してほしい教員と、そこまで興味を持ちきれずにいる学生のギャップを感じている。教養的な内容には、あまり興味を示さないのか、興味を引くような授業ができていないのか反省点は多い。ある意味で、質問しやすいような質問を仕向けることで、そこから興味を喚起していくような手法も検討しなければならない。

③学生の自学自習を促すための工夫 (B)

動物資源経済学と経済学では、とにかく伝えることを伝えるだけに終始した。質問はいつでも良いとしているのだが、ほとんど質問はない。自宅学習の程度も、アンケートによれば講義科目平均を下回っている。経済学では、自主レポートを 10000 字を課した。これは、成績評価の 100 点の外側とし、出す必要はないが、もしも 100 点の構成要素での得点に不安があるのであれば、これを出すことによって、一定の加点を行うこととしたところ、2 割程度の学生がこれに応じた。内容は様々だが、一つの方法として機能することが分かった。

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等) (C)

経済学・動物資源経済学では、コミュニケーションはほとんどとれなかった。②と同様で、学生の興味を引くような内容にすることは必須だろうが、教養的な内容には関心が薄いという感触もあるため、とても気になるところである。

ただし、専門ゼミなどでは、確かな関心のある事柄についてのコミュニケーションは個別対応を行う中で十分にとれていると思われる。その中でも感じるのは、学生個々の知識に対する欲求が少し薄い点である。もう少し全体的な知識欲求がたかくなるような仕掛けが必要だと痛感する。

⑤双方向授業への工夫 (C)

リアルタイムで行うことを重視した。質問も出やすいと考えたからであるが、あまり期待した効果は無かった。むしろ録画し忘れるなど、後から見れないことへの学生の不満は高いようであった。繰り返し確認できる良さはあるものながら視聴で、大事なところだけふりかえって静聴するという姿勢は、それ以前でも対面授業で、質問されてから、もう一度質問をお願いします、という学生が増えている感触があったことから、あまり良い傾向ではないという疑問も強く持っている。

※A (十分実施している) B (実施しているが十分でない) C (うまく取り組めていない)

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。(V 学科, M 学科の教員の方のみ記載してください。)

5.学生授業評価 (分量の目安: 4～7 行 (160 字～280 字))

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

誤字が多い: この点は反省し改善に心がけている。

スライドが多い: 大事なスライドには印をつけてそれ以外は資料としているのだが、それでも多いという不満は多い。スライド本体でなく資料として別配布にするとみなくなること、リンクで外に飛ぶ形にすると、外部に飛べない閑居の際に参照できなくなることなどから、資料は 1 つにまとめて入れていることで不評を買っている。できれば中身で苦情を言われた方が気が休まる。

誤字が多く、話の量が多く、質が悪い: 1 件、こうした不満があった。「話の量が多い」と、大事なことが要領よく理解できないと言うことだろう。要点をよりクリアに伝える工夫を行いたい。「質が悪い」と言うことについては、もう少し詳細を具体的に記載してほしいと思う。質が悪いというのは、考え方が間違っているということなのか、内容が低レベルという意味であるのか、悪い点は、もっとはっきりと (抽象的でなく) 指摘してほしい。その旨学生にはアナウンスするように努める。

② ①の結果はどうでしたか。

説明を行っても、繰り返し同じ指摘を受けることはある。

いずれにしても、学生とのコミュニケーションのなかで対応も検討を進める予定である。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組めますか。

上記に記載の通りに進めていく。

資料の中から大切なものがすぐに参照できるように、索引機能を強化することを行いた

い。是非自学自習で深く学んでほしいので、そのときに探せるようにできたらと思う。また官庁資料などのアクセス方法も参考として示すことも行うといいと考えている。

6. 学生の学修成果（分量の目安：4～7行（160字～280字））

①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか

学生の成績向上は、私の担当する分野の本学での役割を考えると、ほとんど興味関心・意欲向上の実現ということであると理解している。そのためには、幅広いコンテンツを用意して興味を持つことを促すことが最大の成績向上の取り組みと考えている。できるだけ今、の流れを示して、今後を考えるように授業等は実施したい。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

「興味があるか、というところでもない分野だったのですが、身近なことも取り上げていただいて、全体的に興味を持ってきくことができました」「いろいろな話が聞けてためになりました。いつも先生の考えを話してくれるので聞いてて面白いです。」「一見バラバラにいろんなことを教えて頂けていると思っていましたが、よく見れば前回学んだことが繋がっていたりなどしており、物事を考えるには多くのことを知っておくべきだと思いました。この科目は社会に出たときに非常に役立つ科目だと思います」。全体的に授業評価が芳しくないものであったが、中には上記のように評価する声もあるので、基本は変えずに、改善すべき点を一つ一つ改善していきたい。

7. 指導力向上のための取組（FD研究会参加状況）（分量の目安：1～2行（40字～80字））

2022年1月21日「麻布出る杭シンポジウム」

2021年12月13日「ティーチング・ポートフォリオ（ブラッシュアップ研修）」

2021年11月25日「教育改善プログラム成果報告会」

2021年11月 教員相互の授業参観

2021年3月19・22日 授業に関する説明及び授業デザイン

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

半分以上の学生から、考える上での参考になった、という授業をしたい。

そして、できれば1割ぐらいの学生からは、私の示した事実・論理に、それは間違いではないですか、あるいは私は異なる考えです、といった意見を示してもらえような授業になりたい。

そのためには、技術的に、授業内容の効率的時間配置を行い、多様な教養的情報とその情報検索方法を知ってもらうようにしたい。STEMからSTEAMに、という教育のトレンドがあるが、そのAはリベラルアーツであり、人間を自由にさせる技の一つとして経済学的

な見方を提供して世の中の課題発見・解決策提示を行うのです。経済学的な見方で一つの提示ですので、異論反論を出せる学生さんの登場は、一つの目標にもなります。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

※資料については非公開扱いのものもありますので、資料名のみを記載してください。

動物資源経済学シラバス

経済学シラバス

●FD 研修事後課題（ピアレビューによるブラッシュアップ）の実施

有・無

該当を○で囲む

●下線部以外は今回新規追加した事項を示す。

参考

※ ティーチング・ポートフォリオにおける自己記述を裏付けるエビデンス例

（「実践ティーチング・ポートフォリオ スタータブック」（大阪府立大学高専ティーチング・ポートフォリオ研究会 編）から引用）

（自ら作成するもの）

1. 授業に関するもの

シラバス、小テスト、宿題、レポート課題、試験問題、教材（配布資料、パワーポイント資料など）

2. 教育改善に関するもの

（教育に直接貢献する研究，FD プログラムなどへの参加記録，教育の工夫を示すもの（複数年のシラバス等），教育活動関連の補助金の獲得

（他者から提供されるもの）

1. 学生から

授業評価データ，授業に関するコメント（授業評価の自由記述やメールのやりとり等），卒業生から授業や教育についてのコメント

2. 同僚から

授業参観の講評，作成教材についての意見，同僚のサポート実績

3. 大学／学会等から

教育に関する表彰，教育手法等に関する講演の記録及び招聘の要請書類，カリキュラムやコースの設計などについての評価

（教育/学習の成果）

授業科目受講前と受講後の試験成績の変化，学生の小論文・報告書，学生のレポートの「優秀」「平均的」「平均以下」の例，特に優秀な学生についての記録，指導学生の学会発表などの成果，学生の進路選択への影響についての事実，学生のレポートの改善の軌跡